



地域を育み、
大陸をつなぐ

Weekly



・会長 山田 直樹 ・例会日 毎週金曜日 12:30
 ・幹事 唐井 仁一 ・例会場 〒488-0801
 ・会報 井田 武憲 尾張旭市東大道町原田 2570-3

・事務所 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail : owariasahi@mte.biglobe.ne.jp
 URL : http://www5b.biglobe.ne.jp/~owariasahi/

本日 第1957回 2011年3月11日(金) No.1849

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

卓 話 者: 丹羽 敏行君

ロータリーソング 「我等の生業」

演 題: 「カメラとパソコンのトレンド」

前回 第1956回 2011年3月4日(金) 記 録

斉 唄: 「君が代」・「奉仕の理想」

ゲスト: 交換留学生

ジョルダン・ライル・レクブ君

出席者: 会員29名中23名出席 出席率79.31%

前々回補正出席率は2月18日分93.10%

会長あいさつ

山田 直樹



昨日の中日新聞朝刊の記事に地元として大変うれしいニュースが掲載されました。尾張旭市向町在住の津軽民謡歌手中野みち子さん(38歳)が青森市で2月に行われた「青森県民謡グ

ランプリ」で優勝し、57代王座にのぼりつめたというものです。他の全国大会でも2回優勝しているが、「日本一よりも青森一のほうがすごい。青森の人に認められてこそ」とご本人のコメントです。以前当クラブでの伊那RCとの交流例会の折、市内在住の三味線奏者の岡野兄弟をお呼びしたことがありましたが、中野さんは、その岡野兄弟のお母さんでもあります。ご当人も民謡歌手であり、津軽三味線のすばらしい演奏者でもあります。息子たちと全国を駆け回ることが実現しそうです。期待します。本日皆さんに長野県松川町のりんごジュースをお持ちしました。私は20年近く前から、松川町でりんご農園を経営している平澤充人さんという方と知り合いになり、彼のりんごにかける情熱にひかれて、援農活動を行っています。何も利益を求めず、りんごの樹の権利もありません。どうして始めたかという、当時後継者がなく、しかも昭和40年代より有機栽培でのりんごの生産を目指して孤軍奮闘している彼の姿を目にして、少しはこのおいしいりんごを口にしているばかりではなくて、手伝って

あげようという気持ちになったからです。有機栽培のため、普通の農薬を使っでの生産作業の3倍の手間がかかります。

当然りんご1個の販売価格も通常スーパーで売られているものの3倍になるので、なかなか売れませんでした。少しずつ地道な販売ルートの開拓を続けて顧客を増やしていきました。一時期青森で無農薬りんごがもてはやされたことがありました。しかし、本当に無農薬でのりんごの栽培は出来ないのだそうです。限りなく必要のない農薬を減らして作るという言い方が正しいのだそうです。有機農産物に適合する薬(例えば、石灰硫黄合剤、ブルード液、機械油乳剤)は、どうしても、りんごのそのおりの発育に使わざるをえないと彼は言います。しかし、現在広く使用されている農薬の散布は、平均して3割は生産者の努力と工夫によって減らすことが出来るのだそうです。より安全な食べ物の追求は非常に労力と生産コストを高めることになるのが現実です。彼が言うには、本当においしいりんご(例えば、ふじ)は一般にスーパーに並んでいる大きさのものよりも、はるかに小ぶりのものだそうです。しかし、みてくれがよく、少しでも単価を上げたいと考えると大きくしてから販売するということになるのだそうです。しかし、彼の代でりんご農園の経営を止めるつもりでいましたが、息子が最近になって後を継ぐということになり、俄然周囲に活気が戻ってきました。本人と息子のりんご作りに関しての意見の対立も起きているようですが、まあ二人を今後も応援してやっていきたいと思えます。4月末から5月のゴールデンウィークにかけてりんごの花摘み(摘果作業といいますが)作業に行きます。まだ雪をいただいた南アルプスを背景に、青い空、りんごの花の白、草の緑、タンポポの黄色のコントラストがとてもすばらしく、心が洗われます。皆さん、一度ご一緒しませんか。

OFDY・識字率向上月間

	3月19日(土)	3月25日(金)	4月3日(日)	4月8日(金)
例会予定	18日(金)振替 東尾張分区 IM 於 ウェスティンゴヤキャッスル AM9時 点鐘	親睦例会 テーマ「春の家族会に ついて」	1日(金)振替 春の家族会	卓話担当者: 広報委員会 卓話者: 未定 演題: 「未定」

おめでとう

結婚記念日：

3月 3日 水野 幸彦君
 3月16日 西尾 輝久君
 3月18日 古橋エツ子君
 3月30日 井田 武憲君



今月の結婚祝いの会員です。

誕生日記念日：

3月10日 服部 右子君 淑子様
 3月13日 西尾 輝久君夫人 勝久様
 3月15日 古橋エツ子君主人 ミエ様
 3月30日 小柳 和之君夫人
 3月30日 松下 洋一君



今月の誕生日祝福の会員です。

幹事報告

- ・2/25 第4回OFDY委員会 於商工会館 西尾委員長以下6名出席。
- ・本日の会合：第12回(現・次期)理事役員会
第8回40周年実行委員会
- ・次回の会合：第6回クラブ協議会
- ・例会変更のお知らせ：別紙。

ニコボックス

結婚記念日を祝っていただき。

西尾 輝久君、古橋エツ子君

誕生日を祝っていただき。

井田 武憲君、服部 右子君、松下 洋一君
 夫の誕生日をお祝いいいただきありがとうございます。
 古橋エツ子君

家内の誕生日を祝っていただき。

小柳 和之君、西尾 輝久君

本日、OFDYの卓話をさせていただきます。

西尾 輝久君

今月はOFDY月間です。皆さん、お願いいたします。

西尾 輝久君

西尾さんの卓話を楽しみにしています。

大竹 薫君、唐井 仁一君

桜井 雅博君、松原 樹君

昨日の桃の節句に、多くの4年生が私の退職祝いとして、花束と寄せ書きを持ってきてくれました。教員冥利に尽きると大感激しています。

丹羽 敏行君

今日は孫の誕生日です。3歳の男の子です。もちろんかわいいですよ。

森 和実君

また寒くなりましたね。皆さん健康に留意しましょう

勝屋 弘忠君

井田さんお帰りなさい。奥様の具合がどんどん良くなっていかれることを、お祈り申し上げます。

山田 直樹君

井田さん、奥さんご健康回復おめでとうございます。

加藤 清久君

新人研修会、多くの皆さんのご出席をお願いいたします。

加藤 清久君

青空に我がロータリー旗、たんびく。

古橋 裕志君

昨日、3月3日 二人目の孫が誕生しました。

古橋 裕志君

3月よりジョルダン君をホームステイをさせていただきます。5月までめんどうみます。宜しく願いいたします。

谷口 伸夫君

第12回(現・次期)理事役員会報告

日時 平成23年3月4日(金) 13:35~

場所 尾張旭市商工会館 第一会議室

- 議題1) ニュージーランド(第9970地区) クライトチャーチ付近地震、義損金の件 (唐井幹事)
- ・有志を募る方法で義援金を送ることで承認した。
- 2) 春の家族会の件 (加藤親睦活動委員長)
- ・40周年式典等の慰労を兼ね、ご家族に喜んでいただき、負担をかけないように予算を配慮する。行き先は長浜方面。行程(旅程)の時間をもう少し工夫することで承認された。
- 3) 次年度委員会構成について。(会長I/ク)
- ・別紙資料で了承を得ました。
- 4) その他の件
- ・新入会員歓迎会・大野VTT派遣チームリーダー壮行会の件 (加藤親睦活動委員長)
 - 名古屋観光ホテル 多くの参加をお願いする。
 - ・3月19日(土)開催のIMについて「夢みるいちじくをワイン」提供することを了承した。
 - ・2010-2011山田年度の申し送り事項について。5月申し送りをする。

第9回40周年実行委員会報告

日時 平成23年3月4日(金) 理事会終了後

場所 尾張旭市商工会館 第一会議室

- 議題1) 40周年記念事業会計報告
- 資料に基づき報告し了承された。式典会計報告の備考欄を修正する。
- 祝儀等を加味し、それ相応の対処をした。
- 2) ご祝儀の報告及び活用について
- 祝儀の取り扱いについては周年事業会計に繰り入れる。活用については記念誌の清算が済んでから再検討する。
- 3) 40周年記念事業写真の配布について
- 配布しない。記念誌にて対応する。
- 4) 40周年記念誌について
- 記念誌を作る事で了承された。記念誌の実行委員の責任者に井田武憲君が指名された。

卓話は次週の掲載にさせていただきます。

卓 話

「OFDYの20年年間を振り返って」

OFDY委員長 西尾 輝久



OFDYは1990～1991年（平成2年）に尾張旭RC創立20周年記念事業として一般会計から繰り入れ金約700万円と個人寄付金100万円の計800万円で基金が創設され始めました。そして翌1991～1992年に運営規程が出来、更に1996年（平成6年）規程改正で、従来より積み立ててきた基金は取り崩さないと明記された。そして同時期にOFDYの検討委員会が構成され、この時より恒久基金と年次基金寄付金に分けられ、恒久基金に組み入れられ、年次寄付は事業に充当する資金として運用することに決まった。そしてそれまでの恒久寄付金の果実は年次寄付金に組み入れられ、その後1998～1999年および2000～2001年に交換留学生に対して、また2002～2004年にかけて米山記念奨学生に対してそれぞれ助成が行われた。更にその後2002年より運営規程、細則が再改正され、

（ア・基金の活用範囲を地域青少年まで拡大する。
イ・OFDY運営委員会をOFDY委員会の名称にする。

ウ・助成枠をクラブ主体の事業に対する助成も可能とする。

エ・委員長を規程にて決める。）

その後8回まで続いた「ヤングミュージックフェスタ in尾張旭」に助成を主体にしてきた。（会報1721回より引用）

この事業は尾張旭RCにとって誇れるイベントであったと会員一同自負していると思うが、今後何らかの形でどこかが引き継いで続けてほしいと願うものである。

OFDYの今後を考えると、現在は毎年決まった助成事業はないようだが、今後に向けて恒久・年次寄付は継続すべきと考える。しかし、恒久基金については、最初の目的と少し変わったに思えるが、このまま状況のみて時代の流れにまかせるしか方法がないのかもしれない。しかし、一度全員で考えても良い時期に来ているのではないかと。